

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800014		
法人名	社会福祉法人こもれび福祉会		
事業所名	グループホームこもれびの郷		
所在地	島根県益田市横田町710番地		
自己評価作成日	平成22年12月24日	評価結果市町村受理日	平成23年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://lllp://kouinyou-c.tukusni-shimane.or.jp/kajigosin/infomationPublic.do?LCD=3290800014&SC
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成23年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から三年半が過ぎ、ゼロからスタートした職員も、現場の基準を満たした上でスキルを上げることに努めてくれ、介護の技量も上がってきていると思う。ただ現場は、ほとんどの利用者が、すべての行為に介助が必要となり、事故(怪我)との背中合わせの状況にある。その中で、基本である、本人の想いを聞き取ることを忘れず、利用者が施設の中で自然に生き生きと暮らせるよう、職員は現場の状況の共有に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来、職員の異動もなく全体として落ち着いて安定しているので利用者が安心して過ごせる場所となっている。利用者の高齢化、重度化が進んできた状況の中で「今、どう介護支援をするかが大切」と、職員は気持ちを共有して課題を解決することを目指して介護技術、サービスの向上に取り組んでいる。先回の課題の運営推進会議、地域の交流も推進会議メンバーの自治会長、利用者の家族、地域の方々の協力により改善し、来訪者も増え、月1回の茶話会にも地域の馴染の方も楽しみにして参加されるので利用者にとっても楽しい時となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”自然に寄り添い心からの笑顔を”の理念のもと個々の入所者様のリズムでの生活の場を造り上げる努力をしている。	管理者と職員は理念をもとに支援を行い「今を大切に」を合言葉に、利用者の希望に沿った生活を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの情報誌”こもれび新聞”を月に一度発行し、地域へ施設の様子を知らせたり、毎月一回の茶話会では、地域の方との交流ができるようになった。	事業所前に設置している掲示板や、毎月「こもれび新聞」を地域に配布して、ホームの様子や行事の案内をしている。茶話会や講演への参加などを通し利用者と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも認知症を少しでも理解していただけるよう、施設行事の中に認知症についての講演会を企画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会では即、現場に行かせる意見をいただけることが多く、施設長は他の施設の推進会にも出席させてもらい、他施設の良いところを見習うようにしている。	自治会長の積極的な協力を得て地域との連携などについて話し合い、意見を有効に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設だけで悩まず市の担当者とも連携を取り、アドバイスをもらうように努めている。	市の担当者とは相談、意見、要望など何でも話し合える関係が出来てきた。家族との間を取り持ってもらったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護度の平均が3.1の現状では家族の了解のもと、拘束の部分もあるが、日常生活においては拘束の無いケアに努めている。	基本的には身体拘束をしないケアをしている。入院された場合にも早く退院していただき、ホームでリハビリしながら介護しているが、安全のため動きに制限を加えることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連の研修の参加に努め、スピーチロック等での虐待が無いよう努めるとともに、入浴時は常に全身観察をすることとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見センター(益田・鹿足地区)の会や、想いを言えぬ人の気持ちをどうみ取るかの研修へは、努めて参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所当初の説明に十分な時間を取り、家族様の理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、二ヶ月に一度の運営推進会議にも家族の代表に参加してもらい意見や要望を聞き取り、施設の事業計画に反映するようにしている。	利用者はもちろん、家族は面会時、年2回の家族会や家族同伴の遠足など機会あるごとに意見や要望を聞いて運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は定期的に職員の意見を聞き取り、職員一人一人の能力を現場に生かしてもらうようにしている。	管理者、職員は開設時より共にホーム作りに携わってきているので気心もわかっている。より良い介護支援を目指して共に生き甲斐のある環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	この三年間で就業規則の変更もかけたり、職員のスキルをあげる研修に参加させたり、終了後は資格手当等に反映するようしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の協力なくして研修参加は出来ず、1人でも多くの職員を研修の場へ参加させるように努めている。研修後はケア会議で研修内容の共有を図るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域グループホーム交流会は、今まで年2回の予定で計6回の交流会を開催した。ネットワークづくりや、勉強の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画を立てる上では、職員の側の想いではなく、初心に返り、本人様の生活暦等の振り返りを心掛けたり、家族様の意向をもしっかりとかがうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時十分な時間を取っての面接をし、シートに起こし記録している。入所しての生活については、常に施設から家族様への状況報告に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに関しては、他のサービスを利用することは難しく、施設内での対処になるが、介護する側の幅広い介助の技量を身に付ける必要がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のその日の状況を見極め、残存能力をできるだけ使っていただけるよう努力し、日々の暮らしの中の日課的な作業(物作り)を、職員とともにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一度でも多くお母様の顔を見ていただくように、利用料金も手払いしていただいたり、病院受診もできるだけ家族様にさせていただき、些細な状況の変化も密に連絡を取り合う様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや里帰り等、家族の協力で行っている。また、当地区より入所の方は、毎月茶話会等で、顔馴染みの人との会話を楽しんでいる。	当地区の利用者も増えて、月1回の茶話会に顔馴染みの方が来訪される。他地区の方にも墓参り、自宅の様子見、外泊など、途切れないよう関係継続を支援している。	次第に効果が出てきているので更に進めていかれることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9名の個性が強くなってきており、時に口論や暴言の出る日があるが、職員は一人一人の性格を周知し、仲裁を上手に行っている。閉じこもりがちな人には訪室を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転所されると以降の関わりはほとんどない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話等で利用者の想いを拾い上げるよう努め、毎月のケア会議で職員同士利用者個々のモニタリングをし、共有している。	理念の言葉を第一に「今の気持ち、想い」を汲み取りながら、全職員で共有して本人本位の支援介護を目指して取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初の面接シートを基本とし、入所後からはサービス計画書を念頭に置き、月々のモニタリングをし、次の月のサービスのあり方を話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症ゆえに1日1日様子も違い、動向は常に念頭に置くよう心掛け、職員は申し送りや情報収集の重要性を感じている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしさを失わないよう心掛け、毎月のモニタリングの中でケアのあり方を再確認しながら職員の意見交換をし、家族の思い、本人の想いを考え合わせた上での計画書の作成に努めている。	夜勤、日勤の専門性をとっているので情報の共有に漏れがないように引継ぎを大事にしている。全員でケア会議で検討し、確認してから計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の仕方についてはまだ不十分だと考えているが、職員同士の情報共有には心掛け記録の中で、重要な点には赤線を引くなどしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所当初と比べ、機能的に個々の差が出てきており、ケアについても利用者一人一人のペースに合わせるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護度の進行で、なかなか思うように出かけていくことが出来なくなったが、地域の方々を呼び込んでの茶話会や、近隣の小学生達の訪問はとても喜ばれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選考は、家族・本人の意思を尊重している。協力医がかかりつけ医になっている利用者は、月一回まとめたの往診をしていただいている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医となっていて通院支援を行っている。かかりつけ医が協力医の利用者は月1回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護職員に、必要時アドバイスを受け、かかりつけ医や家族との連携を取り、対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、担当医に早期退院のお願いは常にしており、回復の状況を病院のソーシャルワーカーと連絡を密に取り、経過の把握に努め、面会に出向くことも心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて協力医には、施設の方針を伝え、必要時には支援協力をお願いしている。家族に対しても看取りについて説明をしているところである。	協力医に支援、協力をお願いしている。家族に対しても現在のホームの方針について説明してある。今後職員に対して看取りについて勉強をしていく方向で取り組んでいく。	全職員が共通理解のもとに進めていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用の講習は受けたが、定期的には行っていない。急変時にはデイサービスの看護師の支持を仰ぐ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練時には地域住民の協力を得ている。職員も昼夜を想定した訓練をしている。	昨年、水害避難勧告が出るという体験をした。反省点も見え検討課題もわかり、今後の対応に活かしていくことが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時、着衣の整え等の介助の声掛けも個々対応にしている。	マニュアルをもとに研修を重ねている。特に声掛け、誘導、居室への出入りなどに細心の配慮をし、人生の先輩に対して尊重の念を忘れない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の気持ちを伝えられない利用者に対しての対応・自己決定の支援については目線を合わせ、問いかけを重ね、本人の想いをくみ取るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々重度化する中で、タイムスケジュールはほとんど無い状態である。表情や体調の観察を優先し、その日の過ごし方はなるべく希望に沿えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設からの誕生プレゼントや敬老会・クリスマスのプレゼントは利用者それぞれにあった服等を選んでいく。整髪・整容にも気配りをした支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や盛り付けを手伝っていただけるとは限られてきたが、その日の状況を見極め、テーブルふきや野菜切り等、分業して参加してもらっている。今年の誕生会は、事前に食べたい物を伺って、誕生日当日の昼食に用意し誕生会をしてきた。秋には三班に分かれて外食も楽しんだ。	重度化が進む中で一緒に準備、片付けが出来ない利用者も多くなっているが、出来る範囲内で参加してもらっている。利用者・職員一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏食、摂取量のむら、水分不足など問題はありますが、その都度利用者の状態を見ながらバランスの取れた食事になるよう、気に掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施しているが、拒否される人には無理強いをせず、間をおいて再度声を掛けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時より全員が紙パンツ使用者であった。個々の排泄の習慣や、パターンをつかむよう今も努力している。職員間で連携を取りながら、トイレでの排泄ができるよう心掛けている。	「トイレで排泄を」を目標に、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握、共有に努めながら支援をし効果が現れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤使用を中止する方向で主治医と相談しながら、漢方に切り替えたり日頃より運動・水分量等に注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関してはタイムスケジュールにはめず、午前中でも入浴をせざるを得ない状態になる人も出てきている。清潔保持については常に心掛けているが、入浴嫌いな人は無理強いせず、タイミングを見て勧めている。	毎日入浴することもできる。面倒がられる利用者もあるが、タイミングや様子をみながら声をかけ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後、昼食後の一眠りが週間づいてきている。部屋の採光についても考慮するようにし、不安の訴えがある人には安眠に向けていろいろな対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に新しく処方された薬については、職員が目的、副作用等しっかり共有するようにしている。内服の確認、体調の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様も施設での利用者のリズムをわかっておられるようになり、何人かではあるが、定期的な面会や外出をして気分転換を図っていただいている。本人の日頃の会話や、生活歴から楽しみごとの支援ができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の急な希望に沿うことは難しいことが多いが、春・秋の遠足や、季節ごとのドライブ、家族の協力を得ての外出を支援している。	無理強いはせず、いろいろ工夫をしながら少しでも外出機会を作るよう努めている。春と秋には3班に分かれて外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の管理に任せている。当初は”持っていたい”の訴えの人もおられ、利用者の半数の人が五千円までの預かりをしていた。今は全て家族管理になってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、子供さんが県外在住の人には、毎月23の日(ふみの日)に写真入の葉書で現況報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMの音量、快適な室温、清潔感等への気づかい、ホール内の壁面には四季の行事に合わせ手作りの展示物をするようにしている。	清潔で明るい環境作りに努め、ホールには手作りの作品や写真が飾られている。廊下の手すりは利用者の機能を考え取り付けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外での椅子の設置や、たまりへのコタツの準備、その日の天候に合わせてくつろげるよう椅子の配置等を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持込品が少ない為、殺風景になりがちだが、時に、一輪挿しに花を飾ったり、自分で作成された塗り絵なども居室に貼っている。	室内は明るく、機能的な作りとなっている。利用者は使い慣れた持ち物を置き、自分の作品や家族の写真を飾ったりしている。	より生活感のある空間作りを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	新しく手すりを設けたり、洗濯の物干しの場所を工夫したり、台所周辺の安全を考慮している。		